



ふれあい



中央病院敷地内に咲くつつじ(平成 26 年 4 月 8 日撮影)

【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

2014 年度始めにあたって	院長 望月 泉……2
紫波地域診療センターの紹介	紫波地域診療センター長 小野満……3
沼宮内地域診療センターの紹介	沼宮内地域診療センター長 川村実……3
左手と足の小指	前統括副院長 武内健一……4
感謝!!!	前看護部長 村山和子……4
初期研修を終えて	栗島宏明・伊藤貴司・吉田美智子……5
電子カルテ委員会について	副院長 佐々木康夫……6
看護専門外来開設のおしらせ	看護部……7
非常用発電機設備及び外来第 1 駐車場増設の完成について	施設係長 多田誠一……8
編集後記……	……8

【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は 1,700 部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

2014 年度始めにあたって

院長 望月 泉

2014 年 4 月、年度はじめにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

甚大な被害をもたらした東日本大震災津波から 3 年が経過しました。被災され、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方々の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

アベノミクスの推進により、株価上昇、円安傾向になり、中央では経済政策は順調に進んでいるかのように、地方ではまだまだ厳しい状況が続き、医療・介護・福祉・年金等政治から目が離せません。平成 24 年 8 月に、「社会保障の安定財源の確保等を図る税制の抜本的な改革を行うための消費税等の一部を改正する等の法律案」が可決され、この 4 月から消費税が 8%へと増税となりました。さらに、平成 27 年 10 月に 10%へと引き上げられる予定です。消費税は、高い財源調達力を持つ、税収が経済の動向に左右されにくく安定している、勤労世代など、特定の人への負担が集中しないなどの理由から、社会保障の安定財源にふさわしいと考えられ、今回の消費税率の引き上げが行われることになりました。一方、医療では控除対象外消費税として扱われ、



医療機関の消費税負担は益々増えることとなります。

皆さんは健康保険証を提示して、医療機関を受診した際に、支払う費用に消費税はかかっていると思いますか？処方箋をもらって、薬局でお薬を受け取るときに支払う費用には、消費税が含まれていると思いますか？社会保険診療は非課税なので、患者さんからは消費税をいただいていません。しかし、診療を行うための設備や医薬品などの仕入れには、当然消費税はかかり医療機関は支払っています。消費税は病床規模が大きい病院ほど負担割合が高くなり、当院は年間約 3 億 5 千万円の消費税を支払っていますが、患者さんからはいただけない状況です。控除対象外消費税に対して、過去においては診療報酬に上乘せされ、解決済みとされてきましたが、この 4 月の診療報酬改定は実質マイナス 1.26%となり、消費税増税分はすべて医療機関が負担する構図となっています。しかしこれまで当院は医療の質と経営の質の双方を高めるべく取り組んできました。最新の医療を提供するためには、高度な医療機械の購入、設備投資は欠かせません。本年は最新鋭の放射線治療線形加速器(リニアック)を更新します。良質な医療を提供できるよう、本年も取り組んでいく所存です。

平成 24 年 4 月、私は当院病院長となり、2 年間病院運営の舵取りを行ってきました。「改革」と「再



生」というキーワードを常に脳裏に浮かべながらことにあたってきたつもりです。岩手県立病院のセンター病院として、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院としてさらに質が高くかつ安心、安全な医療の提供をめざし、いかなる困難があろうとも職員が一体となってチーム医療を推進し、改革、再生をキーワードに医療の質の向上を追求して行ければと願っています。

今年やりたいこと、やらなければいけないことは、院内ハード面、ソフト面の整備です。築 27 年を経過して、外来をはじめあらゆるスペースが手狭になりました。職員皆で知恵を出し合って、より良い病院になれるよう考えていきたいと思っています。また、患者さんに快適な療養環境を提供できるよう、トイレなどのアメニティ整備が急がれます。同時に職員が働きやすい環境整備も必須で、この病院に勤務してよかった、楽しめたと思える病院にしていかなければと決意を新たにしております。

以上、年度はじめのごあいさつとさせていただきます。

紫波地域診療センターの四季折々

紫波地域診療センター長 小野 満

私が赴任した平成18年4月に岩手県立中央病院附属紫波地域診療センターに県立紫波病院が名称を変え、19床の有床で新規開院しました。隣接するにいやま荘の高齢の患者さんが、熱発したり食事が摂れなくなったり、また胃瘻作成のためとかそれなりに需要は有りましたが、翌年には突然に無床化となり、職員も減少しました。町の患者さんからも、入院ベッドの再開を求める声もありましたが、空き病床の利用の考えとして病後児保育を医師会とNPO法人と当センターの3者が協力して行いましたが、利用者が少なかったことにより、2年間で終了となりました。現状は内科と外科、整形外科そして特殊外来として肝臓外来、糖尿病外来、呼吸器外来で患者さんの診療を行っております。



当院の季節は様々な花で彩られ、春はベニヤマザクラが咲き、庭園には白いスズラン水仙が、紫色と白のカキツバタも咲き誇ります。小鳥たちもさえずり、スズメや、ヤマバトやセキレイも子育てをし、そして巣立っていきます。夏にかけては玄関前の窓辺に朱色のルコウソウ、空色のヘブリンブルー、赤のスカークレットオハラの西洋朝顔が咲きます。そして裏の畑にはトマトがたわわに実り、キュウリやスイカそしてブラックベリーも実をつけ、患者さんと職員の憩いの場となっています。秋にはモミジが真っ赤に燃え、その後多くの種子を周りに蒔いて翌年に新しい芽を吹きます。冬になるとこのモミジの葉がおちて真っ白な雪の華が咲きます。また1年間世話をしてきたシンビジウムも黄色の華が房状に咲き誇るのは新しい年が明けてからです。このように紫波地域診療センターは四季折々の美しい自然に恵まれた所です。一度はお立ち寄りください。お待ちしております。



岩手県立中央病院附属沼宮内診療センター長新任のごあいさつ

沼宮内地域診療センター長(兼中央病院副院長兼総合診療科長) 川村 実

4月より診療部長から沼宮内診療センター(センター)長を拝命しました。センターには2011年10月から月に2回の割合で高血圧・糖尿病専門外来に出向していましたが、毎週の月曜日と木曜日となりましたので、今まで以上に町民の方々の健康管理のお手伝いができることを楽しみにしています。私は長年、高血圧・糖尿病での運動や食生活である生活習慣の改善効果について興味をもって仕事を続けています。高血圧・糖尿病の治療の基本は運動や食生活の改善であり、これを怠るとどんなに優れた薬を内服しても薬の効果は減弱ないし消失します。つまり、治療代の無駄使いとなってしまいます。運動や食事のいわば当たり前の生活習慣の改善であります。この当たり前が病気の発症の予防効果もあり、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症やがんなどの発症を防ぎます。食事療法の中でも特に私は減塩活動を積極的に支援していて、高血圧学会の減塩委員会の委員として普及活動をしています。減塩を成功するためには個々の町民が実際どのくらいの食塩摂取量を摂取しているかを評価する必要があります。その食塩摂取量を尿から測定できる方法を九州大学の川崎晃一先生と共同で開発致しました。それをういた減塩活動が岩手県を中心として広まってきています。岩手町でもこれを機会に実施できればと期待しています。健康福祉の岩手町づくりに微力ながら尽力したいと思っています。



センターは沼宮内地区の開業の先生と高度専門の医療ができる医大や中央病院との連携となることが使命であると思っていますので、円滑な連携に努力したいと思っています。今後のセンター運営についてお気づきのところがあれば御提言いただければ幸いです。

退職職員から(平成 26 年 3 月退職)

左手と足の小指

前統括副院長 武内 健一

今、映画『男はつらいよ』を第一話から観ている。主役の寅さんはもちろんだが多くの名脇役が居てはじめて盛り上がる。主役だけでは盛り上がるはずがない。

私は内科医であるが手術を例にとろう。多くの人は右利きである。おそらく世の名医と称する先生は他のどの人よりも左手を上手に使えるのではないかと推測の域を出ない(研修医のデスカン風*)がそう思う。左手があつてはじめて手術が成り立つ。ダヴィンチ**であろうとも同じだ。日の当たらない左手をそつとなでてみた。

また、足の小指がないだけで歩行するのにたいへん往生するらしい。退化しつつあるようにも見えるが小さくて大きな存在なようだ。

考えてみると、多くの左手と小指で成り立っているのが中央病院だ。それが分かるまで 27 年、何と長い道のりであったことか。そして、どこまで中央病院の左手と小指になれたか？

今夜は風呂で左手と小指をゆっくり洗ってやろうと思う。改めて、己の左手と小指に、感謝。

* 中央病院では院内で亡くなられた方全員の検討会を毎週行っている。

** 医師の遠隔操作で手術を行うロボット。



・経歴/武内健一統括副院長

昭和 62 年 4 月に地域医療科医長兼呼吸器科医長として着任され、平成 18 年 4 月に副院長兼診療部長、平成 24 年 4 月に統括副院長兼附属沼宮内地域診療センター長に就任。

感謝！！！！

前看護部長 村山 和子

私は昭和 50 年 4 月に医療局採用となり、39 年間勤務させていただきました。そのうち中央病院には 3 回出入りしながら、28 年間お世話になり、最後の 2 年間は看護部長として充実した毎日でした。特にも平成 25 年度は「第 15 回日本医療マネジメント学会学術総会」「新評価体系による病院機能評価更新審査」「東北厚生局の適時調査」があり、そのたびに看護部次長や看護師長をはじめ全職員が一丸となって取り組みました。学会は成功裡に終わり、各監査は大きな指摘事項もなく、改めて組織力の強さや職種間のチームワークの良さを実感しました。

先日、退職にあたり看護師長・看護師長補佐・主任看護師を対象に講義をする機会をいただき、異動してきた組織の中での人材育成【人は財産であり、一人ひとりを大切に育てること】をお話しました。そして患者さんやご家族が「中央病院にきて良かった」と思えるように心に寄り添ってほしいこと、また私たち職員が「中央病院で働いて良かった」と思えるように自分自身も努力することを伝えました。もちろん私は「中央病院で働いて良かった！！」と思っています。長い間ありがとうございました。



・経歴/村山和子看護部長

昭和 50 年 4 月に採用され、県立衛生学院、当院看護部次長、県立東和病院総看護師長、県立花巻厚生病院総看護師長、医療局業務課勤務を経て、平成 24 年 4 月に看護部長に就任。

初期研修を終えて

栗島 宏明

2年間の岩手県での研修生活が終わりました。その間中央病院の他にも、東和病院、一戸病院などで勤務させていただくこともありました。

私が故郷である東京を離れ、東北の地に住むようになってから8年が経過しました。私は東北での生活が好きです。この2年間の研修で様々な人と出会い、色々とお話しさせていただく機会がありました。その中で、出身が東京であること、これからも東北で仕事をしていこうと思っていることなどを話すと、「ここに来てくれてありがとう」といったお言葉をいただくことがよくありました。私としては好きな土地で仕事をしているだけなのに、感謝までされてしまうなんて、なんだかずるいような、恥ずかしいような、そんな気持ちになります。むしろ温かく迎え入れてもらえることを私が感謝しなくてはならない立場なのに。

縁あって今後も中央病院でお世話になることになりました。身に余るようなありがたいお言葉をいただいた分、少しでも恩返しができるよう、岩手県民のみなさまのため、より一層努力していきたいと思います。



伊藤 貴司

春の訪れとともに、私の当院での初期研修も3月で修了となり、平成26年3月19日には研修修了式が執り行われ、同期全員の研修修了が認められました。この2年間を振り返り、あらためて当院で研修できたことを誇りに思っています。

私は、思い返せば当院の志望理由として、診療科が揃っており研修病院としての歴史が長いことを挙げていました。そのためこの2年間では、大学時代での経験が少なかった科も含めて、できるだけ多くの科をローテーションし、できるだけ多くの臨床的センスと手技を学ぶことを意識してきました。指導して下さる先生方は、みなさん熱意にあふれており、魅力的な方ばかりでしたので、非常に充実した研修生活を送ることができたと思っています。

4月からは、当院の耳鼻咽喉科レジデントとしてさらに研鑽を積み、勤務医の耳鼻咽喉科医が少ない岩手県で、小児から高齢者まで、全世代の患者さんを診ることのできる医師を目指して精進したいと考えています。



平成25年度臨床研修医修了式 H26.3.19



吉田 美智子

私にとって2年間は、将来に繋がる充実した時間でした。要領が悪く不器用だった私を、根気強く時に厳しく指導して下さった先生方。ちょっとしたことで落ち込む私に、前に進む力をくれた17人の同期。本当にたくさんの方々に支えられた2年間だったと思います。写真は最後に同期で温泉旅行に行った際のものです。このメンバー全員で今後一緒に働くことはないと思うと寂しいですが、離れていても切磋琢磨し、負けないよう努力したいと感じています。

2年間を終えた今、学生時代から目標としていた小児科医としてのスタートにやっと立つことが出来ました。初期研修で成人を含め様々な症例を経験し、感染症を含めた全身管理を更に深く学び、小児科診療に生かしたいと考えています。大学時代の恩師の「その子がより良い人生を歩むようにサポートしていかなければならない」という言葉が今はとても重く感じられます。その言葉を胸に、こどもたちの健康と成長のお手伝いをできるよう、日々精進していきたいです。

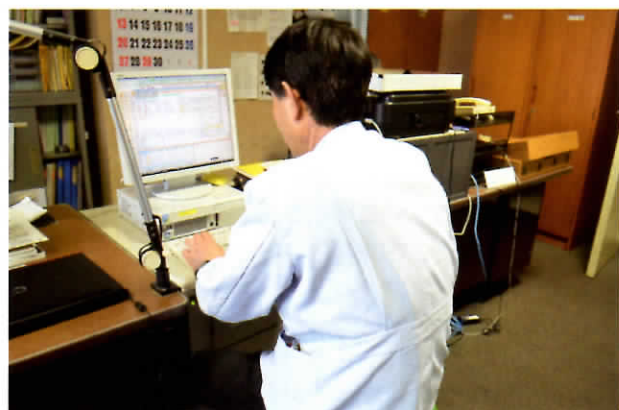


電子カルテ委員会について 副院長(電子カルテ委員会委員長) 佐々木 康夫

当院の電子カルテは平成22年11月1日から病棟での使用を開始しました(外来は23年2月1日)。電子カルテ導入の約2年前から導入準備委員会が立ち上がり、毎日のような打ち合わせや、マスターづくりに追われるのが日常でした。病理、手術、歯科など電子カルテ運用開始に間に合わなかった部門は暫時整備が行われ、24年11月にPACSによる放射線画像のフィルムレス運用の開始を最後によく全体の整備が終了しました。当院の電子カルテはMegaOak HR(NEC)で、電子カルテ本体(オーダーリング、診察や実施結果の記載、部門情報参照、パスによる電子的スケジュールによる医療)と医事情報システム、院内各サービス部門との連動によって構成されています。この機能に加えて、CI(クリティカルインディケータ)やDPCシステムはYahgeeシステムが担当しており、CDSによる電子カルテでは取り扱うことのできない各種文書、同意などの認証文章、デジタル化できない院内外の画像などのスキャン情報の管理システム、医療情報の統合化をベースにしたカンファランスシステム、さらに事務系のオフィスシステムであるshin systemによって構成されています。実はこれらの総体が広義の電子カルテであって、この中でどれ一つかけても病院の運用に齟齬を来しますので、電子カルテ委員会が取り扱うシステムはこれらのすべてになります。現在の電子カルテ委員会は、電子カルテ準備委員会が導入後に解散したあと、実際の運用実施に伴う諸問題を管理運営するための部門として発足しました。委員会は医師部門、看護、薬剤、検査、放射線、リハビリ、栄養などの各部門、医療情報管士などによって構成されています。委員会は当初月2回の開催でしたが、現在は月1回開催しております。これにNECの電子カルテ担当の方々、NECから派遣されているオペレータ(MISO: Medical Information System Operator)と医療局の医事企画課システム担当の方々と交えたシステム定例会を隔月で開催しています。この委員会の業務は委員会の開催と言うよりは日常の煩雑な作業の連続への対処にあります。受け持つ仕事は機器のメンテナンスから使用規定の遵守管理、不具合や様々な現場調整、ソフト改修へのとりまとめなどを行っております。

当院の電子カルテは、準備の段階での本当に大変な努力の成果と、開始後の皆様のご協力があった、順調な運用が続けられておりますが実際は毎日のようにいろいろな問題が起きています。たとえば、現在医師、医療クラークにのみ認められている電子カルテ入力行為ですが、医師も手が空かない、医療クラークもいない救急や夜間に誰が電子カルテに入力するのかを想定した状況の運用を考えて見ると、入力権限ことのみを考えると物事は先に進みません。要は、患者の安全や情報の精緻性を確保しながら現状に則して事に当たることなのですが、原則を崩してしまった先には混乱があるのみです。電子カルテ端末(パソコン)もよく壊れます。これらの多くの仕事は事務方(業務企画室)が行っており、担当の西野さんは、他の院内業務も担当されておりますので、文字通り忙殺されている毎日です。電子カルテは、コンピュータによる電子的な情報運用の形態の一つですが、運用は背景(behind the scene)での人の力が必須です。常にだれかが見守ったり手当したりする必要がある点ですので、列車に例えると新幹線と言うよりはSL(蒸気機関車)に近いのかもしれない。

これからも、委員一同、一生懸命に努力いたしますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



「看護専門外来」開設のお知らせ

看護部では、当院へ通院・入院している患者さん・御家族の、がんに関する不安や悩みについてサポートするために「看護専門外来」を開設します。担当は、がん看護領域の専門・認定看護師です。お気軽にご相談ください。

(1) 開設年月日：平成26年 4月

(2) 外来の内容について

	内 容		場 所	担当看護師
看護専門外来	がん全般について	日常生活を送るうえで、がんの治療や症状等と、上手に付き合うための情報提供及び相談・支援など	1階中央ホール 薬剤部側相談室	がん看護専門看護師 がん性疼痛看護認定看護師 緩和ケア認定看護師
	乳がんに関すること		新棟2階 乳腺・内分泌外科外来	乳がん看護認定看護師
	がん化学療法に関すること		新棟1階 外来化学療法室	がん化学療法看護認定看護師

(3) 予約方法等：原則として予約制です。①、②のいずれかでご予約ください。

① 下記の連絡先にお電話をいただき、ご予約ください。

② 受診科の医師、看護師へご相談ください。

(4) 会計について（保険診療での計算）

1割負担の場合 1回 200円（6回まで、7回目以降は無料）

◇スキンケア外来について

以前より、実施されていたストーマ外来です。

診察日以外に相談がある場合は、診療科外来へご相談ください。

内 容	場 所	担当看護師
ストーマ、尿路ストーマに対するケア 床ずれや傷などに関すること 便・尿失禁相談 社会資源の活用方法 など	1階受付5 消化器外科外来 2階受付8 泌尿器科外来 1階受付2 小児科 小児外科	皮膚排泄ケア 認定看護師

相 談 日 時			月	火	水	木	金
がん全般	9時～12時	面談時間 1回 30分～50分	○	○	○	○	○
	14時～17時		○	○	○	○	○
乳がん	15時～17時		○	○	△	○	○
がん化学療法	15時～17時		○	○	○	○	○
スキンケア外来	診療科予約時間と同時間		○	○	○	○	○

【連絡先】 岩手県立中央病院 019-653-1151
電話受付時間 15時～17時
「看護専門外来」 がん治療支援チーム専従看護師
各診療科外来看護師
「スキンケア外来」 各診療科外来看護師

